令和元年度

教育に関する事務の管理及び

執行の状況の点検・評価報告書

子ども議会

中学生だっぴ

商品開発

English Day

令和2年3月

早 島 町 教 育 委 員 会

－　目　　次　－

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　教育委員会の活動状況

1　教育委員会会議の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　研修会及び協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

3　総合教育会議　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

Ⅲ　教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1　教育委員会の体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

2　教育委員会の点検・評価の視点　・・・・・・・・・・・・・・　5

3　教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価・・・・・・・　6
①　会議の運営等
②　教育委員会の公開性
③　基本的・総務的な事務の管理
④　人的管理事務

4　学校教育重点事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・　9
※学校におけるＩＣＴ教育の推進

5　生涯学習重点事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・　１６

Ⅳ　点検・評価に関する有識者からの意見　・・・・・・・・・・・・　２３

Ⅴ　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

Ⅰ　はじめに

１　点検評価の趣旨

平成１９年６月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第２６条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

２　点検評価の対象及び方法

教育委員会が平成２９年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

〈参考〉
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ　教育委員会の活動状況

１　教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏　　名	性別	任　　期
教　育　長	徳山 順子	女	H27.12.26～R3.12.25
教　育　長 職務代理者	大森　　茂	男	H29.4.1～R3.3.31
委　　員	綾野 克紀	男	H29.4.1～R6.3.31
委　　員	竹井　成範	男	H30.4.1～R4.3.31
委　　員	栗坂　祐子	女	H30.10.1～R4.9.30

審議案件等

開催日	議　決　等　事　項
４月２５日（木）	【議事事項】 （１）平成３１年度学校園経営方針について （２）国のＥＳＤ研究指定について （３）平成３１年度早島町働き方改革プランについて （４）平成３１年度はやしま学行事予定について
５月２３日（木）	【議決事項】 （１）早島町立学校管理規則の一部改正について （２）早島町学校事務共同実施要綱の一部改正について （３）早島町教育委員会事務局組織規則の一部改正について 【議事事項】 （１）虐待対応の手引きについて （２）平成３０年度スマートフォン等の利用に関する実態調査について

６月１８日（火）	【議事事項】 （１）授業等について意見交換 （２）早島町立早島幼稚園給食提供について （３）インターネット環境等のアンケート調査結果について
７月１７日（水）	【議事事項】 （１）県（町）学力・学習状況調査の概要について （２）その他
８月２１日（水）	【議事事項】 （１）全国学力・学習状況調査の概要について ・「ラッキー７計画　早島」（小学校、中学校） （２）早島町幼稚園給食の成果と課題について （３）「教育のまち・はやしま意見交流会」（熟議）について
９月２４日（火）	【議事事項】 （１）平成３０年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果等の考察と今後の取り組みについて （２）早島幼稚園給食実施条例と早島幼稚園給食実施規則について （３）いかしの舎の駐車場について
１０月２５日(金)	【議事事項】 （１）授業等について意見交換 （２）ＩＣＴ環境整備について （３）早島町立学校の教職員の勤務時間の上限に関する方針について （４）義務教育学校施設検討委員会について （５）令和元年度岡山県市町村教育委員会委員研修会について
１１月１９日(水)	【議決事項】 （１）早島町地域学校共働本部設置要綱の策定について （２）早島町町民総合会館管理運営規則の一部改正について （３）早島町部活動指導員実施要綱の一部改正について 【議事事項】 （１）義務教育学校に向けて
１２月２０日(金)	【議事事項】 （１）学力向上に向けて ・学力定着状況確認テスト設問別調査結果について ・秋の学習状況調査集計結果について （２）長期欠席や不登校の状況について （３）義務教育学校に向けて

	・施設部会 ・カリキュラム部会
１月１７日（金）	【議事事項】 （１）早島幼稚園の参観と給食について （２）第２回学校評価アンケート集計結果について （３）来年度の予定等について
２月２１日（金）	【議決事項】 （１）早島町立幼稚園預かり保育条例の一部を改正する条例について （２）早島町立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則について （３）早島町立学校の教育職員の勤務時間の上限に関する方針の改正について 【議事事項】 （１）令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について （２）令和２年度主要事業について （３）義務教育学校整備検討について
３月１３日（金）	【議事事項】 （１）令和元年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について （２）令和２年度年度教育施策の概要 ～「教育のまち・早島」推進アクションプラン～ （３）来年度の行事等について ・令和２年度入学式、授業公開日等

２　研修会及び協議会

開催日	研　　修　　会　　名　　等
７月１７日(水)	令和元年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会（倉敷市） 参加者：教育長　他３名
８月２日（金）	子どもと大人の意見交流会（第１回熟議） 参加者：教育長　他１名
１１月７日(木)	令和元年度岡山県市町村教育委員会委員研修会 参加者：教育長　他２名
１２月２１(土)	子どもと大人の意見交流会（第２回熟議） 参加者：教育長　他２名

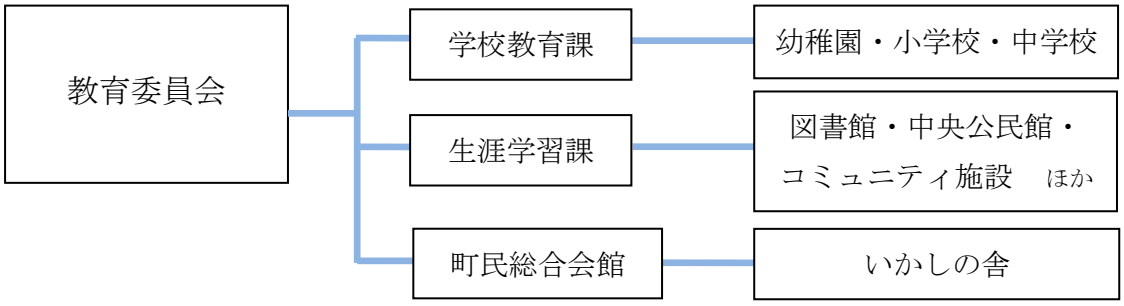
１月１１日（土）	中学生だっぴ 参加者：教育長　他１名

３　総合教育会議

開催日	議　決　等　事　項
９月２４日（火）	第１回総合教育会議 【議事事項】 （１）早島町一貫教育について
２月２８日（金）	第２回総合教育会議 【議事事項】 （１）義務教育学校の整備検討について （２）GIGA スクール構想の実現に向けて

Ⅲ　教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

１　教育委員会の体制



２　教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
①　会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
②　教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③　基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④　人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

3　教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

①　会議の運営等

項　目	会議の回数、円滑な進行
目　標	会議の実施回数は年間１２回として、事務局から早めに適切な情報を受け、会議運営を円滑に行うことに努めるとともに、審議を深め、会議の充実を図る。
成　果	○開催回数は１２回、総合教育会議２回で、充実した審議が行えた。 ○議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換が活発になされた。 ○授業公開日や行事等には、積極的に参加し、各学校園の状況を把握した。
評　価	○毎回の会議で、事業の進捗状況や学校園の様子を理解するなど、円滑に協議を行うことができた。 ○義務教育学校の検討につては前向きに意見交換がなされた。 ●委員会の議決案件については、内容量の多いものについては、引き続き事前の配付が必要であった。 ○●学期毎に学校園訪問日の設定や公開授業・行事等に参加するなど、学校園の状況把握に努める必要があり、今後も積極的な参加を促す。

②　教育委員会の公開性

項　目	会議の公開、事業内容等の広報
目　標	教育委員会の会議内容や実施事業等を広報誌やホームページへ掲載・公開することで、町民に教育行政に対する関心を高める。
成　果	○早島町学校教育ビジョン、はやしま学支援本部の活動等はホームページや町広報誌、教育フォーラム等で積極的に広報した。 ○教育委員会会議の概要を毎月ホームページに掲載することができた。
評　価	○学校園の取組や、はやしま学協働本部を中心とした教育活動を様々な方法で、積極的に地域住民等に広報していた ○会議録の概要や開催通知は毎月ホームページに公表・発信している。 ●義務教育学校の整備検討について、ある程度、素案ができれば、保護者や地域の方の意見等を聞く場の設定をしていく必要がある。

項　目	町長等との連携
目　標	町長や教職員、学校運営協議会委員との情報交換を密に行うことで、改善に向けた、貴重な意見を施策に反映する。
成　果	○総合教育会議や課長会議等で、町長部局との情報交換を行った。 ○事務局を小学校に置き、幼小中合同の学校運営協議会を年６回実施し

	た。また、学校評価の項目として、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化が見えるようにした。また、一貫教育の視点から、学校関係者評価を年２回実施することで、学校運営の改善につなげた。 ○８月、１２月に「子どもと大人の意見交流会（熟議）」を実施し、児童生徒・地域住民が活発な意見交換を行うことで、地域の課題や改善等を共有することができた。 ○２月の子ども議会では、全議員や役場との連携のもと、園児児童生徒が早島 ESD タイムで探究してきたことを堂々と提案し、実現に向けた活動を行った。 ○義務教育学校については、施設部会・カリキュラム部会を立ち上げ、それぞれの部会が学識経験者の指導・助言のもと、協議を深めた。
評　価	○町長をはじめ町長部局との連携・協働を大切にできた。 ○校運営協議会については、学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会の３部会の支援活動が充実し、教育効果を高めた。 ○早島町学校教育ビジョンの推進に向けて、全教職員が 4 部会に分かれ一貫教育に向けたカリキュラムの再構築を図るとともに、義務教育学校の整備検討に向けて、全国アンケートを実施するなど情報収集ができた。 ○「子どもと大人の意見交流会（熟議）」は、児童生徒や地域住民から、多くの建設的な意見が出され、課題解決に取り組む気運ができつつある。 ●時間が許せば、総合教育会議を増やすことも考えたい。

③　基本的・総務的な事務の管理

項　目	方針・事務事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
目　標	教育行政重点施策を策定し、円滑に事業が実施されているかを確認する。また、必要に応じて規則の制定・改廃を行う。
成　果	○国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定や、規則の改正等に向けて、充実した審議を行った。 ○施設管理では、学校施設の点検を行い、中長期的な維持管理を行うための個別施設計画を策定した。施設整備としては、小学校１舎・２舎トイレ洋式化改修工事、小学校体育館入口修繕工事、小学校メディアルーム空調設置、小学校受変電設備更新整備工事、中学校駐輪場ブロック塀補強等工事、中学校給食棟庇改修等を行った。 ○生涯学習課の事業については、社会教育委員会議において、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。
	○施設の中長期的な維持管理の見通しをもち、義務教育学校の整備計画と併せて、改修・修繕工事等を計画的に実施できるよう、学校施設の個別施設計画の策定を行った。

評　価	○誰もが過ごしやすい環境整備のため、幼稚園や小学校トイレ洋式化を計画的に進めている。来年度は小学校１舎３階及び職員トイレ洋式化工事、中学校体育館のトイレ洋式化を予定している。 ●校舎の老朽化に伴い、是正すべき箇所も明確になったので、児童生徒の安全面を第一優先に修繕等に取り組んでもらいたい。 ●小学校の遊具等も更新できるよう、計画的な修繕に取り組んでほしい。 ●一人一台端末に向けてＩＣＴ活用の授業づくりができるよう、高速ネットワーク環境の整備やタブレットの購入を計画的に進めていく。

⑤　人的管理事務

項　目	教職員等の人事
目　標	幼稚園、小中学校の適正な人員配置を行う。
成　果	○小中学校では、３０人程度学級の学習環境を実現した。 ○小１グッドスタートは、４月～１２月まで支援員を配置したことで、落ち着いた学習環境を整えた。 ○小中学校の学校司書と町立図書館とのネットワーク化や、中学校での計画的な蔵書整備など図書館の環境整備や読書活動の充実を図った。 ○不登校対策として、小学校に登校支援員２名の配置、スクールカウンセラー・ソーシャルワーカーの配置など、登校しにくい児童への家庭訪問や相談体制の充実を図った。 ○業務アシスタントを小中学校配置や留守番電話の設置、コンピューターでの出勤管理など、働き方改革の充実を図った。 ○小学校英語専科教員やＡＬＴの配置により英語教育の充実を図った。
評　価	○小中学校における３０人程度学級、小１グッドスタートの延長は、落ち着いた学級環境づくりのために継続していく必要がある。 ○小中一貫した、英語教育の充実を図るために、小学校でのオンライン英会話やトレパの活用は効果があった。 ○●小学校には英語専科教員を配置し、ＡＬＴの配置や、留学生の交流も含め、「Can Do リスト」を作成し、英語をツールとした４技能を統合した活動に取り組んでほしい。 ●図書館利用をする児童生徒の増加や、１か月に１冊も本を読まない不読率を減らすための取り組みを来年度積極的に取り組んでほしい。 ○●町費講師や教育支援員を継続的に配置しており、教育効果を高める工夫や、人材育成に取り組んでほしい。

項　目	研修の実施
目　標	教育委員会が主催する全学校園の教職員を対象とした研修を計画的・意図的に開催し、指導力の向上に努める。
成　果	○年度当初に、コンプライアンス推進員を中心に、信頼される教職員であるための服務研修を行い、不祥事防止の周知徹底を図った。 ○学校園では、On-the-Job Training（ＯＪＴ）の充実を図り、若手教員の指導力を高めるとともに、長期休業中に、道徳や別支援教育、プログラミング教育、ＥＳＤ研修等を行い、教員の資質能力の向上に努めた。 ○学級づくり研修会では継続的に講師を招聘し、授業参観・師範授業・講義演習等を通して、園児児童生徒との関わり方や声かけ等について学び「ほめ言葉のシャワー」の実践が広がりつつある。 ○道徳の授業づくりでは、前教科調査官を継続的に招聘し、道徳の考え方の基礎基本や中心発問、内容項目、学習評価の工夫等について研修を行い、「考え・議論する道徳」の授業づくりへの意欲を高めた。
評　価	○ＥＳＤを踏まえた総合的な学習の時間や道徳の時間の充実など、先進的な内容を計画的・継続的に実施することで、保幼小中学校１５年間を見据えたカリキュラムの再構築ができつつある。 ○保育園の職員にも積極的な研修の参加を呼びかけたことで、保幼小中一貫教育の取組がさらに充実した。 ○コンプライアンス研修を充実させ、不祥事防止に向けて、心に響く参画型研修やＯＪＴを効果的に活用して、教職員の指導力を高めている。 ○授業改善推進リーダーを中心に、全教員で各教科の授業改善を進めていけるよう改善が図られつつある。 ○ＳＤＧｓの視点とキャリア教育の視点を踏まえた、ＥＳＤ教育の充実を図っており、探究活動の質の向上や課題設定の仕方について全教員で取り組み、成果を上げている。 ○●算数・数学の授業改善に取り組み、今年度は成果をあげたが、来年度からは、まず５教科に広げ、授業改善を重点的にとりくんでほしい。 ●教科を中心に教科横断的な学習プログラムも作成して全国に発信してほしい。 ●GIGA スクール構想の実現に向けて、情報教育推進リーダーの育成や、教員のＩＣＴ活用指導力の向上に向けて、ステップを踏みながら計画的に取り組むことが不可欠である。

４　学校教育重点事業に対する評価

○数値目標

項目	県現状	県目標値 (R2)	早島小		早島中	
			H30	R1	H30	R1
全国学力・学習状況調査（平均正答率）の全国平均との差	【小６】 国　：　0.6 算　：▲1.7 【中３】 国　：▲0.3 数　：　0.3 英　：▲1.6 （▲マイナス）	10 位以内（県） 各科目とも＋3ﾎﾟｲﾝﾄ以上（町）	【小６】 国Ａ：▲1.1 国Ｂ：▲1.3 算Ａ：▲3.9 算Ｂ：▲2.4 （▲マイナス）	【小６】 国：　5.8 算：▲0.2 （▲マイナス）	【中３】 国Ａ：　1.6 国Ｂ：　1.4 数Ａ：▲0.4 数Ｂ：▲1.7 （▲マイナス）	【中３】 国：　1.6 数：　1.4 英：　2.3
学級がうまく機能しない状況が発生している学級数	１１学級	９学級	０	３	０	０
不登校（欠席日数：年30 日以上）の出現割合（児童生徒1千人当たり）　※（実人数）	17.2 人	9.6 人	8.7 人 ※（7 人）	6.1 人 ※（5 人）	41.8 人 ※（14 人）	58.4 人 ※（20 人）
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合（小６中３対象）	小６　72.1% 中３　64.6%	74.0% 71.0%	70.6%	61.1%	74.0%	87.9%
「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合（小６中３対象）	小６　65.9% 中３　44.1%	71.0% 47.0%	66.2%	73.3%	53.2%	48.1%
「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合（小６中３対象）	小６　41.1% 中３　22.1%	50.0% 25.0%	36.1%	35.1%	34.9%	24.1%
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（小６中３対象）	小６　44.7% 中３　36.5%	50.0% 50.0%	44.0%	42.0%	43.8%	46.3%
１週間の総運動時間数が 60 分未満の児童生徒の割合（小５、中２対象）	小５男子 7.2% 小５女子 11.6% 中２男子 7.0% 中２女子 19.3%	5.2% 8.9% 5.8% 18.4%	男子 8.2% 女子 8.9%	男子 7.0% 女子　0%	男子 3.3% 女子 21.4%	男子 9.1% 女子 23.8%

○重点事業

重点項目	小中一貫教育の推進
目　的	確かな学力と豊かな人間性、健やかな健康・体力を備え、地域とつながり、未来を拓く、はやしまっ子の育成に資するよう一貫教育の推進を行う。

計　画	・保育園・幼稚園・小学校・中学校の１５年間で目指すべき子ども像を踏まえた、付けたい力を明確にした授業改善に取り組む。 ・学びの質や深まりに焦点をあて、各教科や総合的な学習の時間等において、児童生徒が主体的で対話的な深い学びにつながるよう効果的な指導法について、参画型の研修会を実施する。 ・義務教育学校の整備検討に向けて、「施設部会」と「カリキュラム部会」を立ち上げ、具体的な検討を行う。 ・ＳＤＧｓとキャリア教育の視点を踏まえた、ＥＳＤカリキュラムの構築を図る。 ・小中学校でＮＩＥ教育に取り組み、思考力・表現力等を育成する。 ・学校園に設置したボルダリング・スラックラインを活用し、体幹を鍛え、集中力・思考力を磨く。 ・小学４年生～中学３年生の学力・学習状況調査を行い、児童生徒の学力を把握・分析し、教育指導の成果と課題を検証し、経年比較を行うとともに、全教員で授業改善を徹底する。 ・小学４年生～中学３年生まで、hyperＱ-Ｕ調査の活用により、児童生徒一人一人の多面的理解や学級集団への所属感などを把握し、いじめ・不登校の未然防止と早期発見に努める。 ・はやしま学園運営協議会では幼小中の共通項目と独自項目で、学校関係者評価を実施し、保護者・地域・有識者の意見を反映する。
成　果	○秋田県より講師を招き、算数科を中心とした子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法や発問の工夫などについて研修を行い、教員の指導力向上を図った。 ○義務教育学校の整備検討に向けて、「施設部会」と「カリキュラム部会」を立ち上げ、講師を招聘して計９回の会議を行った。 ○生活科・総合的な学習の時間を核にして、ＳＤＧｓのゴール目標を踏まえた課題を設定し、付けたい力を明確にした単元学習プログラムを作成することで、課題探究や行動化を推進した。 ○小中学校でＮＩＥに取り組み、記事の読み比べや新聞づくりを通して、社会に関心をもち多面的に考えられる力を培った。 ○学校園に設置したボルダリング、スラックラインを活用することで体幹を鍛える取り組みの充実を図った。
今後の方向性	・学力・学習状況調査結果から、小中学校ともに算数・数学が全国平均を下回る結果であったため、引き続き算数・数学の授業改善に取り組むとともに、それを踏まえて、小中で５教科を重点化した授業改善を図りたい。 ・学びの質や深まりに焦点をあて、各教科・道徳・総合的な学習の時間等において子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法につ

	いて講師を招聘し、参画型の研修会を実施する。 ・国の研究指定を受けている中学校を中心に、ＳＤＧｓのゴール目標とキャリア教育の視点を踏まえてカリキュラムの再構築に一体となって取り組むとともに、教科横断的な学習プログラムの作成を行う。 ・中学校では、長期欠席・不登校の生徒が増加しているため、一人一人の気持ちに寄り添う支援や言葉かけを行うとともに、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの活用など、不登校対策に積極的に取り組む。

重点項目	早島町学校教育ビジョンの充実
目　的	地域とつながり未来を拓く子どもの育成に向けて、保幼小中の一貫した教育を進める。
計　画	・教育支援コーディネーターを中心に、放課後・土曜はやしま塾、土曜英会話塾、ロゲイニング、大学の専門家等との連携による教育活動等を企画・運営し、学校外での学びの場を提供する。 ・教育支援コーディネーターを中心に、大学生や留学生、地域住民等よる「サポートボランティア」の人材確保を行う。 ・中学生には「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す。 ・大学や専門機関と連携した「English Bus ツアー」や「科学バスツアー」などの「子どもカレッジ体験活動」を開催する。 ・「子ども議会」「子どもと大人の熟議」「子どもフォーラム」「早島英語暗唱大会」「中学生だっぴ」「早島 English Day」等を活用し、社会に開かれた提案発信や学びの場づくりを積極的に進める。
成　果	○「協働・協学・協育」の町づくりを目指し、はやしま学協働本部を設置し、教育支援コーディネーターを中心に、社会教育でのはやしま学の活動について企画・運営を行い、地域での学びの機会を保障するため、放課後・休日のはやしま塾や英会話塾、わくわくサマーホリデーなどを開催した。 ○中学１年生対象に生き方を考える「だっぴ」の開催や、２年生対象に留学生との交流「English Day」を開催することで、生徒の意識変容が見られた。 ○英語で表現豊かにコミュニケーションをしようとする力の育成を目指して１２月に英語暗唱コンテストを開催し、小中学生が１４名参加したが、年々英語力が上がってきているとの評価を得た。 ○熟議や子ども議会、子どもフォーラムなど、園児児童生徒の地域提案を発信する場づくりは地域の方に大変好評であり、学校応援団が増加した。 ○早島町学校教育ビジョン推進委員会を年６回開催し、一貫教育の推進に向けて、保幼小中の教員が４部会に分かれ研究に取り組んだ。

今後の方向性	・小中一貫教育や義務教育学校検討に向けて、カリキュラム部会・施設部会で検討を重ねる中で、ある一定の成果が得られた。今後は、義務教育学校に向けて新たな課題探究を行う必要がある。 ・はやしま塾や英会話塾、算数ロゲイニング等の更なる工夫とともに、大学や専門機関との連携で「子どもカレッジ体験活動」を増やしていきたい。 ・教育支援コーディネーターを中心とした支援体制のもと、「早島っ子サポートボランティア」の人材確保に努め、人材育成を計画的に行いたい。 ・「第３回早島ＩＧＵＳＡ花ござピンポン世界大会」の企画・運営を通して、中学生の活躍の場づくり、社会に開かれた交流の場づくりを行う。 ・中学生対象に「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す手だてにする。 ・英語・漢字・数学検定を年３回ずつ実施し、参加者の増加を図るとともに、英語検定では、早島町英検受検応援制度の活用をして、中３までに８割以上の生徒が英検３級以上の取得を目指す環境をつくる。

重点項目	不登校対策事業の継続
目　的	町ふれあい教室を開室し、不登校児童生徒の心の支援や学習サポートを行う。
計　画	・町ふれあい教室に支援員を週５日配置することで、教育委員会と学校が連携して不登校児童生徒の生活リズムの改善や学校への登校を促す。 ・不登校対策担当者会を２か月に１回実施し、登校支援員、担当教員、ＳＳＷ等が情報共有し、講師を招いて研修することで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に取り組む。 ・町で「不登校親の会」を年３回開催し、個別相談や保護者会を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待を聴き取り、保護者支援・学校支援を行う。 ・小学校登校支援員２名、中学校心の教室支援員１名の配置により、きめ細かな支援を行うとともに、小中学校ともスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを効果的に活用する。
成　果	○適応指導教室（ふれあい教室）や中学校心の教室に、支援員を配置し、児童生徒の居場所づくりに努め、効果をあげた。 ○幼稚園・小学校・中学校の登校支援員・担当教員などが不登校対策担当者会で個人支援カードを用いて情報共有し、欠席状況や家庭環境等を把握することで、早期対応や個別支援につながった。 ○小学４年生～中学３年生で実施する hyperQ-U調査により、児童生徒一人一人の多面的理解や学級集団への所属感などを把握し、言葉のかけ方やほめ言葉のシャワー等、具体の取組を全教員で行い、効果を高めた。 ○各校に配置したスクールカウンセラーやソーシャルワーカーが、学校と家庭をつなぐ役割をしており、関係機関との連携が円滑であった。

今後の方向性	・小学校の不登校対策に向けて、登校支援員と担当者の役割の明確化と、担任との連携を視野に、早期段階からどの教員でも児童に関われるようにする。保護者相談も、相談しやすい教員に相談できるよう広報し、まさに「チ―ム早島」の機能の徹底と、情報を早期に共有できるようにする。 ・中学校の長期欠席・不登校生徒数が増加し、こころの教室や適応指導教室の利用も増えているため、支援体制や情報連携を充実させる。だれもが相談しやすり体制づくりを行う。 ・スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの配置時間を有効に活用し、ケース会議や研修の充実など更なる改善に取り組む。 ・適応指導教室（ふれあい教室）では、学校と連携して、不登校児童生徒の生活リズム改善や学習サポートを通して、登校ステップへの充実を図る。 ・不登校対策担当者会を２か月に１回実施し、幼小中の情報共有や支援の充実、講師を招いて教員研修をすることで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に徹底して取り組む。 ・町教委開催の「不登校親の会」では、個別相談等を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待等を把握し、保護者支援・学校支援を行う。

重点項目	学校におけるＩＣＴ教育の推進
目　的	ＩＣＴ機器の活用により、児童生徒の学習意欲の向上、校務の情報化による教員の事務負担の軽減等を図る。
計　画	・小中学校への情報教育指導員の配置を継続する。 ・小学校にメディアルームを新設し、アクティブラーニングの授業づくりを行うとともに、iPad の効果的な利活用で授業の充実を図る。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ＩＣＴ機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間を確保する。 ・小学校でのプログラミング教育の実施に向けて、教職員研修の実施や情報教育推進に向けたリーダーの育成を行う。
成　果	○情報教育支援員の効果的な活用を模索し、職務の見直しを図った。 ○小学校に iPad１００台を新設し、授業支援ソフトを導入して、教材作成やグループでワークシートを共有して共同作業をするなどＩＣＴ環境の充実を図った。 ○小中学校とも、デジタル教科書の使用を通して、視覚的効果を高めるなど、授業の中でＩＣＴ機器を積極的に活用し、児童生徒の学習意欲を高めた。
今後の方向性	・全児童生徒に、自学自習 Web 教材の個人パスワードを渡し、家庭学習の充実を図ったが、今後は自動採点できるシステムの導入を検討し、自宅で習熟度に合った学習内容を選択して自学自習できるようにしていく。 ・全教職員が、日常的にＩＣＴ機器を活用した具体的な指導法の研修やプログ

	ラミング教育の充実に向けた研修に、継続的に取り組む。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ＩＣＴ機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間の確保と働き方改革を実践する。 ・教育の情報化に向けて、ＩＣＴ活用指導力の向上に向けた教員研修や、校内リーダー育成に向けた「教育の情報化推進委員会」を定期的に開催し、ＩＣＴを活用した授業改善を図る。

重点項目	小学１年生グッドスタート事業の補充
目　的	入学した小学１年生に対して生活習慣確立の支援を行う。
計　画	・小学１年生の生活習慣の確立や基礎学力の向上のために、４～１２月（県費４～１０月、町費１１～１２月）の間、支援員を雇用し教育の充実を図る。
成　果	○支援員を各学級に配置することで、児童一人一人が安心して過ごすことができる学習環境を整えることができた。
今後の方向性	・小１プロブレムの解消のため、継続した配置を行っていく。

重点項目	グローバル人材の育成
目　的	外国や日本の文化に親しみ、英語でのコミュニケーション能力を高め、国際的視野を広げる。
計　画	・小学校での英語教育を先行実施し、英語専科の教員を配置する。 ・英語をツールとした英語授業の充実に向けて、ＡＬＴ（外国語指導助手）を小学校・中学校に各１名配置し、幼稚園には毎週水曜日に小学校のＡＬＴが行く。 ・英語暗唱コンテストを開催し、国際人としての基礎を培う。 ・土曜英会話塾では、小学５年生～中学３年生を対象に、年１５回開講し、実践的な英語表現を身に付ける機会を提供する。 ・小学５・６年生の英語授業で習った表現を用いて、フィリピンとオンラインで英会話を行い、実践力を高める。 ・中学校の英語授業でＩＣＴ教材「トレパ」を活用し、４技能の充実を図る。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニングや、英語・母国語での絵本の読み聞かせ、English Bus ツアー等を通して、日本のよさや異文化理解を深める。 ・英語検定３級以上の取得に対して、同一級１回のみ受検料を無料とし、受検者の増加を図る。
成　果	○小学校では英語専科の配置により、ＡＬＴと連携した学習の充実やカリキ

	ュラム作成を行うことができた。 ○小学校５・６年生で、数名の小グループで、フィリピンとのオンライン英会話を行い、英語への興味・関心や国際理解を深めることができた。 ○中学校では、ＩＣＴ教材「トレパ」を活用し、ＡＬＴの発音やイントネーション等を聞いたり発話するなどして、英語力を高めることができた。 ○幼稚園で、英語でダンスや、小学１年生からの外国語活動を通して、英語での会話に慣れ親しんできた。 ○英会話塾や英語暗唱コンテスト、英語での絵本の読み聞かせ等の実施により、地域で生きた英語にふれる機会が増えた。
今後の方向性	・英検３級以上の取得を目指して、英語検定応援制度の活用をさらに推進し、中３で全員が３級以上を取得できるようにする。 ・小学校には、専科英語教員の配置とオンライン英会話の導入、中学校では Hayashima English Day や、４技能を統合的に活用した授業づくりを進め、CAN-DO リストを活用して、英語をツールとして自分の考えや思いを伝える授業づくりを行う。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニング、English Bus、岡山大学の留学生との早島夢の宝島ツアー等を通して、世界に視野を広げる場づくりを引き続き設定し、英語への興味・関心を高める。 ・英語暗唱コンテストやＡＬＴを活用した英会話塾への参加者を増やし、内容の充実を図る。

重点項目	幼稚園預かり保育事業の充実
目　的	保護者の子育て支援を行う。
計　画	・保護者の子育て支援をサポートするため、預かり保育の支援員を配置し、幼稚園の預かり保育の充実を図る。 ・幼稚園の園庭を月１回開放し、就学前の保護者と幼児の支援を行う。 ・ボルダリングを活用し、園児の体幹づくりを行う。 ・食育推進のため、幼稚園で４・５歳児を対象に給食を導入する。
成　果	○預かり保育は、４月当初は５０名弱であったが、２学期後半は６０人程度になり、職員の１名募集をかけたが応募がなかった。２名の支援員と１名の教員とで行った。 ○７時までの延長を認めているが、ほぼ６時までで７時は１名程度であった。
今後の方向性	・早島町の子育てを充実させるために、預かり保育の支援員を４月から１名増加し３名として、預かり保育の充実を図る。

5　生涯学習重点事業に対する評価

1「まなびの舎」の講座・教室の充実

重点項目	「まなびの舎」の講座・教室の充実
目　的	地域住民に自己研鑽の場を提供するとともに、その成果を地域に生かす生涯学習のリーダーを育成する。
計　画	・「まなびの舎」の講座内容をより充実させて実施する。健康・歴史・ＥＳＤ（ふるさと）の３分野の講座を実施し、大人はやしま塾として地域への愛着や誇りを感じるような、充実した内容にする。 ・小学生との合同実施や地元企業や団体との連携を増やすことで、より地域への愛着につなげる講座とする。 ・受講者の取得単位で、サポーターや講師に認定し、講座の運営等に参画できるようにする。また、「まなびの舎だより」や町広報誌で周知に努める。 ・「まなびの舎」での学びを地域に還元する仕組みをつくり、認定者や講師認定者には、地域の中でコーディネーターとして活躍できるよう仕組む。
成　果	○ボルダリングやナイトウォーキング等、新要素を盛り込んだことで、受講者数、新規受講者数、出席率が増加した。 ・受講者数（H30:51 人→R1:63 人） ・新規受講者数（H30:13 人→R1:21 人） ・出席率（H30:30%→R1:32%） ○小学生との合同講座を充実（H30:2 講座→R1:6 講座）させ、小学生の保護者も参加可能としたことで、若い世代との交流が増えた。 ○講座の中で、受講者が自身の経験や生活を発表するコーナーを設けたり、認定者が講座準備や受付、わくわくサマーホリデー・ロゲイニングでの安全管理を行うなど講座の企画・運営に参画できる機会が増加した。 ○長期的に参加する受講者が増え、受講者間のコミュニティが形成されつつある。このことが新規受講者の呼び込みや、受講者の講座への参加意欲に繋がっている。
今後の方向性	・「まなびの舎」認定者の地域での活躍の場は徐々に広がっているが、講師認定者が講師として活躍できる場がない。複数人の講師認定者で作り上げる講座等を考える。 ・引き続き小学生との合同実施を進め、その中で保護者へのアプローチを強めることで、若い世代の受講者獲得を目指す。

2　社会教育施設の整備事業

重点項目	社会教育施設の整備事業
目　的	施設の整備を行い、利用しやすい環境づくりを目指す。
計　画	・西コミュニティーセンターでは、フェンスの設置と老朽化したエアコンの取り換えを行う。 ・ゆるびの舎では、１階トイレの洋式化とロビー天板防水工事を行う。また、文化ホールの音響機材とトレーニングルーム用バイクを購入する。 ・戸川家記念館では、民具倉庫の床タイルの修繕を行う。 ・町立図書館では小荷物昇降機のブレーキ制御回路の取り換え修繕を行う。
成　果	○西コミュニティーセンター、ゆるびの舎、戸川家記念館前民具倉庫、町立図書館の施設整備は完了し、利用しやすい環境を整備した。
今後の方向性	・西コミュニティハウスのトイレの洋式化は来年度行う。 ・点検等を行い、計画的に老朽化している施設や設備等の修繕や更新による整備を進めていく。

3　地域コミュニティの活性化

重点項目	地域コミュニティの活性化
目　的	希薄化した地域コミュニティの再構築を図る。
計　画	・夏まつりや町民運動会、町民ソフトボール大会、生涯学習まつりなどのイベント内容の充実や工夫を図る。 ・学生・高校生ボランティアの活躍の場を設け、町の行事で中高生が活躍することで地域コミュニティの活性化を図る。
成　果	○夏まつり、町民運動会、生涯学習まつり、マラソン・駅伝大会では、中学生や地域住民のボランティアが多く参加した。また、夏まつりの翌朝の清掃ボランティアには親子の参加者もあり、「楽しませてもらったので恩返しを」といった声もあり、ボランティアの輪が広がっていることを実感した。 ○マラソン・駅伝大会の会場内に、早島中学２年生が開発した商品の販売ブースを設け、積極的に広報するとともに、大会を盛り上げてくれた。
今後の方向性	・引き続き各種イベントにおいてボランティアを募集したり、内容の改善を検討したりして、より多くの町民が参画したり楽しめるよう工夫する。 ・町のイベントや大会に対して、若い世代の興味・関心を高め、次世代としてイベントを担える人材を育成するべく努力する。

4　地域ぐるみによる教育体制の構築

重点項目	地域ぐるみによる教育体制の構築
目　的	学習支援や体験活動を中心とした「はやしま学」を通して、地域ぐるみの教育体制を築きながら、郷土愛や社会貢献意識を深め、地域の教育力を高める。

計　画	・土曜日・放課後・長期休業日を利用し、はやしま塾、ロゲイニング、英会話塾、夏休みわくわくタイム等の事業を行い、補充学習や発展学習、体験学習など魅力ある講座の充実を図る。 ・大学を学びの場として、大学の先生から英語授業を受けたり、バスの中で英語に親しむなど、「Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂｕｓ」を実施する。 ・岡山市の「未来館サイピア」と連携し、科学教室で科学の不思議に触れることで小学生の知的好奇心をくすぐり科学への興味・関心を高める場とする。 ・地域の方や教職員等がスタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築を目指す。 ・ロゲイニングや絵本の読み聞かせ等で、環太平洋大学の留学生と、早島の魅力を再発見するとともに、世界への視野を広げる。 ・小学生に「わくわくサマーホリデー」「わくわく算数教室」「算数ロゲイニング」等を開催し、日常生活に役だつ、算数への興味・関心を高める。 ・英会話塾では、外国人の講師や留学生との触れ合いなどを通して、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解や英語で考えを表現できるようにする。 ・数学検定・漢字検定・英語検定３級以上の取得を目指し、支援体制をつくる。
成　果	○ロゲイニング、英会話塾、外国絵本の読み聞かせ、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂｕｓ、外国料理体験など、小中学生が留学生と一緒に活動する場を増やしたことで、より多くの子どもたちの他国への興味・関心が高まるとともに、間違いを恐れずに英語でコミュニケーションしようとする態度を培った。 ○身の回りの算数を発見する要素を取り入れたわくわく算数教室や算数ロゲイニングが好評で、算数を生活の身近に感じるきっかけとなった。 ○「人と科学の未来館サイピア」の科学教室には、小学生 144 人が参加し、専門家による様々な科学実験ブースを体験することで、科学への興味・関心が高まり、学習意欲へとつながった。 ○まなびの舎の受講者がスタッフとして子どもたちの指導や安全管理を行い、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制が構築できつつある。 ○夏季休業中には、わくわくサマーホリデー（192 人参加）、絵本の読み聞かせ（138 人参加）に加え、わくわく算数教室（51 人参加）、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂｕｓ（40 人参加）を新設することで、より多くの学習機会を提供できた。 ○わくわくサマーホリデーの会場が小学校になったことで、申込人数が増加（H30：141 人→R1：192 人）し、より多くの小学生の休業中の学習習慣づくりや学習意欲の向上に資することができた。
今後の方向性	・算数にとどまらず、学校での学習を身近に感じられるような工夫を各講座に取り入れていく。 ・事業数と参加人数の増加に伴い、指導方法やスタッフの確保が課題となっている。学習指導では、学年や段階に応じたグループ分けを行い、それぞれス

	タッフを配置できるよう、スタッフを集める。 ・ロゲイニングや不老の道ウォーキングにおいて、小中学生からアイデアを募集し、企画・運営段階から参加してもらうことで、郷土愛や社会貢献意識を高める。

5　歴史的遺産の活用

重点項目	歴史的遺産の活用
目　的	不老の道の灯籠にあかりを灯すことで、いにしえの歴史を振り返り、歴史・文化的遺産の更なる価値をもたせる。
計　画	・不老の道の灯籠（１１基）にソーラー式充電ライトを設置し、歴史・文化的遺産の新しい魅力を引き出す。
成　果	○灯籠設置が完了し、夜になると幻想的な明かりを灯しており、不老の道の新しい魅力となっている。 ○不老の道灯籠ライトアップを記念して、１０月に「不老のみちナイトウオーク」を実施し、４８名の参加者は、古の灯りや歴史に思いを馳せながら夜の早島町を散策した。
今後の方向性	・ナイトウオーキングなど、不老の道の灯籠の灯りを生かした新しい魅力を発信する。 ・町の文化財や天然記念物など町民や児童生徒・教員に広く知らせ、町の活性化を図る。

6　健康づくりとスポーツ活動の推進

重点項目	健康づくりとスポーツ活動の推進
目　的	町民の運動習慣確立とニュースポーツの普及に努め、健康づくりを推進する。
計　画	・総合型地域スポーツクラブを設置し、ボルダリング、スラックライン、花ござピンポン、グランドゴルフ等のスポーツを通して、運動の楽しさを体感したり、世代間交流をしたりする場を設ける。 ・ラジオ体操の推進やウオーキング講習会を開催し、町民の運動習慣の定着の支援を行う。
成　果	○花ござピンポン世界大会には昨年度を上回る申し込みがあり、特に、県外から「仙崎かまぼこ板っ球大会」、「桶ット卓球世界大会」の関係者の参加もあり、卓球大会主催者どうしの交流も生まれた。 ○総合型地域スポーツクラブが始動し、未就学児から高齢者まで５０名を超える参加者が集まった。

今後の方向性	・総合型地域スポーツクラブでの活動を通じて、子どもから高齢者まで町民の運動習慣の確立や世代交流を促すとともに、参加者の主体的な取組となるよう支援し新規参加者を増やしたい。 ・早島発のニュースポーツとして生まれた花ござピンポンを普及させるため、世界大会の内容の充実や広報を図る。

7　子育て支援の充実

重点項目	子育て支援の充実
目　的	親育ち応援プログラムファシリテーター養成と親プロの実施、家庭教育支援チームによる訪問支援や教育相談を一体的に行い、地域全体で家庭教育支援をする体制の構築を図る。
計　画	・ファシリテーター養成講座を開催し、ＰＴＡ保護者、教職員や地域の方をファシリテーターとして養成し、親プロ等のワークショップを実施し、家庭教育支援をする体制の構築を図る。
成　果	○ファシリテーター養成講座（１３名受講）を実施し、ファシリテーターの養成やスキルアップを行った。また、幼稚園、小学校、中学校等の保護者を対象に、親育ち応援学習プログラムの受講生を中心に指導者として実施した。 ○家庭教育支援チーム「すくすくハート」で子育て支援やサロンの取組を整理し、パンフレット及び情報誌を作成した。保護者宅への訪問時や健診・保育相談の際等にチーム員が配付し、保護者との関係づくりを進めることができた。
今後の方向性	・ファシリテーターの養成とスキルアップによる家庭教育支援指導者の育成と、その地域人材による親同士が学ぶ場（親育ち学習プログラム等）の実施など、地域全体で家庭教育支援をする体制づくりを進める。また、保幼小中学校の懇談会等で、親育ちプログラムに取り組む回数を増やしたい。 ・「すくすくハート」で情報誌を３か月に１号発行し、町内の就学前幼児のいる全保護者家庭に配付できる体制を確立する。

8　ゆるびの舎　自主事業の充実

重点項目	ゆるびの舎　自主事業の充実
目　的	町民の芸術・文化意識の向上を図るために、様々なジャンルの芸術の場づくりを行う。
計　画	・「音楽の森（ズーラシアンブラス）」を開催し、親子で本格的な音楽に触れる機会を提供する。 ・心と体の健康づくりのため、漫才やものまね等のお笑いの公演を開催する。 ・様々なジャンルの場の提供として、高校生演劇を開催する。

成　果	○高質な音楽と親しみのある楽しい演出が特徴である「音楽の絵本」では、多くの子ども達が鑑賞し、音楽への興味や感性が磨かれ、大変好評であった。特に、子どもたちが好きな“となりのトトロメドレー”やクラシックの名曲などユーモアを交えながら演奏し、来場者を楽しませた。来場者からは「子どもの笑顔がたくさん見られた」「大人も一緒に楽しめた」などの声が寄せられ、大変好評であった。 ○新型コロナ感染拡大防止に向けて、３月の活動が中止となり楽しみにしていた町民の方には申し訳なかったが、快く協力いただいた。
今後の方向性	・令和元年度に引き続き、笑いによる町民の心の健康づくりの推進を図ることを目的に、プロによる落語会を開催する。 ・伝統的な和楽器であるプロによる三味線のコンサートを開催し、様々なジャンルの場の芸術・文化の提供を行う。

9　図書館活動の充実

重点項目	図書館活動の充実
目　的	図書館機能を活かした読書活動の推進を図る。
計　画	・町立図書館と小中学校図書館とのネットワーク化の実施により、早島町内の読書環境の充実や読書量の拡大を図る。 ・朗読や図書館チャレンジ体験等、講座や体験活動の充実を図る。 ・留学生との外国の絵本の読み聞かせを行う。 ・子育て支援として、スタディースペースや絵本コーナーの充実を図る。
成　果	○レシートプリンターの導入やＨＰ機能追加など、利用者の利便性の向上が図れた。 ○小中学校図書館とのネットワーク化により、児童生徒が学校図書館から町立図書館の本が借りられるようになり、利便性が向上した。 ○学校図書館と町立図書館との合同司書研修を実施し、日ごろの職務を見直すとともに、相互の理解を深めることできた。 ○雑誌・新聞コーナー、オープンスタディスペース、１階の絵本コーナーに隣接したキッズコーナーなどを活用した読書環境の向上に努め、利用者から好評だった。 ○公開講座として、朗読講座、古典講座、防災講座、コミュニケーション講座を実施し、すべて目標参加者数を達成でき、内容も好評だった。 ○図書館ボランティアや環太平洋大学等と連携し、アジアのおはなし会や季節のおはなし会などを実施し、子どもたちに世界のお話や絵本への橋渡しができた。
今後の方向性	・小中学校図書館とのネットワーク化を活用して学校支援の充実に努める。また、司書の合同研修等を実施し、資質の向上や連携を深め、子どもの読

	書活動の推進を図る。 ・様々な行事への参加人数を増やすため、ホームページの充実を図るとともに広報等に取り組み、読書層を広げる。 ・キッズコーナー、おはなしのへやの整備・充実を図り、保育園・幼稚園・就学前の子どもたちの読書環境を整える。 ・利用が増加している高梁川流域連盟、岡山中枢都市圏の相互利用については、対応可能な整備・施策を行う。

Ⅳ　点検・評価に関する有識者からの意見

岡山大学教師教育開発センター　教授　　髙旗　浩志

教育委員会活動について

月１回以上の教育委員会会議の開催や、年２回の町長との総合教育会議、毎週の課長会議等で役場全体での共通理解を図りながら教育を前に進めている様子がうかがえます。また、はやしま学園運営協議会や、学校関係者・地域住民の代表や学識経験者、子ども達など、様々な立場の方々を集め、熟議を重ねてこられたのは、当事者意識を高める上で欠かせないことであり、その努力に深く敬意を表します。こうした中、「子どもと大人の意見交流会（熟議）」や「子ども議会」など、年々回を重ねるごとに充実してきており、「協働・協学・協育の町づくり」に向けて、着実に進んでいるということです。こうして蒔いた種が、地域とつながり未来を拓く「早島っ子」に触発され、地域の大人達にまちづくり・人づくりに対する「当事者意識」として芽吹き始めているように感じます。

事務局によって分かりやすく工夫された町広報誌の誌面は広報として効果がありますが、マスコミに取り上げられる回数も増えてきているようですので、今後は、新聞やテレビなどマスメディアの活用をさらに発展させることを希望します。それだけのコンテンツになり得ており、子どもはもちろんのこと、彼らを指導する教職員、地域の皆さんにとっても一層励みになることと思います。

なお、学校施設の改修や人的配置については、中長期的な展望に立ち、限られた予算の中で工夫していることと思います。教育支援員の配置も他市町よりも多いようですので、更に効果的な活用を望みます。教育支援員の研修も大切であり、早島町学校教育ビジョンに照らしてどのように位置付けられるのかを明確にし、前向きな取組を意図的・計画的に推進していくよう、今後、総合教育会議等において町の総合計画との調整などを行っていく必要があると思います。特に、義務教育学校については更なる検討を望みます。

学校教育について

学校教育における「はやしま学」は、幼小中１２年間のカリキュラムづくりから、その効果的な実施に向けた研修や幼保を巻き込んだチームによる研究へと新たなステージへと進んでいます。中でも特筆すべきは、国のＥＳＤ研究指定を受け、全国発信をしたことで、早島のＥＳＤ研究が全国の注目を集めていることです。小学校を中心とした取組から、

今年は中学校を中心とした取組へと、計画的・継続的に取り組んでおり、SDGs を踏まえた課題設定のもと、キャリア教育の視点も取り入れながら、実のあるカリキュラムの構築ができつつあると思います。これから、教科を中心とした教科横断的な学習プロプラムへの挑戦もお願いしたいと思います。こうしたことを励みとして、教職員のカリキュラム開発や授業改善への意識が高まってきているとのことで、文部科学省での中間報告や作成したリーフレットからも、大きな成果を得ていると確信をしました。

また、設置者の異なる保育園にまで学校教育ビジョンに対する「当事者意識」が浸透し、本当の意味で全ての町民が学び合い育ち合うことの中心に、子どもと学校園があることを参加者が実感していました。幼稚園や保育園は保護者と密接に関わり合っており、保育園・幼稚園の合同の活動が増えることは地域へのインパクトも大きいと感じています。

今後は学校園の主体性を基軸に、保幼小中学校園の縦の軸と、家庭・地域との横の軸が互いに織り合わさり、子どもたちの姿からの発信が、町の活性化に大きな影響を及ぼすものと信じています。一人一人が輝く持続可能な教育の町として、いかに地域力をブランドとして学校園の教育力に活かしていくのか、さらに学校園の教育力をいかに地域力に活かしていくのか、持続可能な協働・協学・協育の基盤は必要不可欠です。

なお、数値目標のうち、中学校では１時間以上学習する生徒の割合が大きく伸びていることや、小学校では夢や目標をもつ児童の割合や１週間の総運動時間（６０分未満）の児童の割合が減るなど、学力向上や体力づくりにつながっていることが分かります。ただ、不登校（年３０日以上の欠席者）については大きな課題であり、早期発見と適切な初期対応が欠かせません。町適応指導教室「ふれあい教室」や中学校の「心の教室」、小学校での登校支援員の複数対応により、新たな不登校を生まないよう小学校では成果が出てきていますが、長期化した子ども達に対するサポートや未然防止の取組も含めて、更に進めていく必要があります。一人一人を大切にした潤いあふれる一貫教育が、地域に誇りと愛情をもつ子どもの育成につながることを期待し、今後も「喜んで登校、満足して下校、行かせたい学校園、行きたい学校園」を目指して、地域一体となった取組を進めてください。

生涯学習について

今年度は、学校教育と生涯学習とが一体となって、取組を進めている様子がよくうかがえます。このことだけでも、学校教育ビジョンの「子どもと学校を中心に置いて、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、“協働･協学･協育”の町づくりを進める」と謳っていることが具現化している証だと思います。中でも特筆すべきは、昨年度から更に、まなびの舎講座の登録人数や単位認定者が急増していることや、外国の絵本の読み聞かせやはやしま塾、ロゲイニングなどに環太平洋大学の留学生が継続的に関わっていることで成果が出てきていることではないでしょうか。地域の方が 100 単位を認定されるまで受講したり、英語が母語ではなく第二言語である留学生が、子どもたちと英語で関わろうとしたりするのは、そこに自らを豊かにできる充実感があり、活動に「当事者意識」が生まれているからこそではないかと感じます。講師認定された方が、まなびの舎講座だけで

なく子ども達や留学生に教えたり、留学生が公民館講座の講師や子ども達から早島や日本を学んだりする広がりも持続可能な好循環につながっていくかもしれません。また、中高生や留学生が企画・運営する「花ござピンポン世界大会」は、参加者が県外へと広がってきており、伝統文化を大切にする心や郷土への誇りを育てる行事として、すばらしい大会に育っていると思います。近隣の高校生との連携は中学生にとっても刺激的であり、中高生を中心とした第３回大会の企画・運営にも大いに期待しているところです。

地域では、放課後･土曜はやしま塾、土曜英会話塾など、学校外に多様な学びの場があり、英語検定・漢字検定・数学検定、英語暗唱コンテストといった、学んだことの手応えを実感できる枠組みもできました。しかし、必ずしも参加者が多いものばかりではないようですので更なる仕組みづくりが必要であろうと思います。もちろん、参加者数だけが全てではありませんが、量的拡充も含め、質的充実を大切にしていただき、工夫改善を図る必要があります。学校教育の充実は生涯学習の充実でもあり、今後も「生涯学習のまち・早島」として、より一層の推進を期待しています。

今後に向けて

様々な立場の方々が熟議を重ねて創り上げた学校教育ビジョンが浸透し、それに基づく取組の効果が芽吹いているように感じます。この４年間、教育委員会事務局による様々な場づくりや学校園による教育活動の改善など、ソフト面の充実に多大な労力が注がれましたが、効果を見極めていく必要があります。また、ハード面の充実も予算の制限がありますから、「何を、どこまで、いつまでに」実現するか、期限(工程表)を定めておく必要があります。つまり、学校教育ビジョンの具現化に向けてどのような学校施設にするか、町当局と議論する段階から、決める段階に進まなければなりません。

全体的には、確実な一歩が皆様方のご尽力で着実に進んでいるものと確信いたしました。来年度も、本稿で述べた諸事務･事業に対する意見を参考にしていただき、「学校教育ビジョン」の着実な具現化、更なる発展を大いに期待しています。

Ⅴ　おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学教師教育開発センター髙旗浩志教授から、点検・評価につきましてご意見をいただき、今後の方向性についてのご示唆をいただきました。

今年度、新学習指導要領に示された、小学校高学年での英語教育や中学校での道徳の教科化など、持続可能な早島の教育の実現に向けて、来年度の小学校の全面実施、令和３年度の中学校の全面実施に向けて、計画的に取り組んできました。

本町では、平成２５年１０月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小

中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を３つの重点項目に掲げ、平成２７年度から、早島町第４次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その更なる具現化に向けて取り組んできたところです。

こうした中、環太平洋大学や岡山大学の留学生、近隣の高校生や大人の方など、大勢の方に参加していただき、町探検ロゲイニングや外国の絵本の読み聞かせ、土曜英会話塾や英語スピーチコンテスト、「だっぴ」との生き方交流会等を通して、地域理解や国際的視野を広げてきました。また、道徳郷土資料「私たちの早島 つなげ未来へ」を活用した道徳授業や地域フィールドワーク教員研修など、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、キャリア教育の視点を踏まえて、「協働・協学・協育」の町へと一歩ずつ着実に進んでいると確信しています。

また、文部科学省のＥＳＤ研究では、小学校の研究成果をもとに、中学校を中心とした取組として、SDGｓの視点での課題設定とキャリア教育の視点を踏まえ、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築を図り、２月に中間報告として全国発信を行い、その取組は全国モデルとして好評を博しました。来年度は、研究２年目となり、教科横断的な学習プログラムの作成も視野に、保幼小中が一体となってカリキュラム開発を行ってまいります。また、大学等での専門性を活かした「子どもカレッジ」体験活動や、GIGA スクール構想を踏まえた一人一台端末による、ICT を活用した授業づくり、小学校高学年での教科担任制の研究など、新しい時代にあった授業改善を積極的に進めてまいります。

今後も、一人一人が輝く、持続可能な早島の教育を目指して、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスから見える現状をきちんと分析・検証するとともに、小中一貫教育の充実に向けた運営体制を整え、社会に開かれた教育課程の構築に取り組み、早島の未来を見据えた教育行政を計画的に進めてまいる所存です。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。